

## サポートツール実証データ

実証研究実施者	丹葉 寛之・小林哲理
区分 1	対人関係・社会性
区分 2	社会性
領域	コミュニケーションスキル
困難	会話が続かない
サポートツール	ちょこつとチャット！
対象者	自閉症、知的障害を併せ持つ成人男性2名(20代、30代)
試用期間	1時間半(1セッション)
使用場所	就労支援施設内の個室
使用上の注意、条件	基本ルールでは、重ねたカードから順番に一番上のカードから引くことになっているが、今回は、知的障害、自閉症を持つ方を対象としたため、リーダー(作業療法士)が事前に、答えやすそうなカードをセレクトし、それぞれに手持ちカードとして配った。また、どのような手順、ルールで行うかは、口頭説明に加え、文字で順序を示した。
使用状況	自閉症、知的障害を併せ持つ成人男性2名+作業療法士1名の3名グループ。リーダーは別に1名つくる。 ①自己紹介、②ルールの説明(口頭及び紙面)、③実施(カードを4枚ずつ配る→本人だけ見ることができる→自分が答えることができるカードを出す→その話題についてトークする)
対象者の使用時の様子	対象者の特徴として、対人緊張が高くコミュニケーションをとることが苦手で、普段の会話でも発展させながら話すことが難しい。対象者 A は自分から話しかけるがパターンの人の話を聞かないことが多い。セッション開始時、パターンの人が言ったことをおうむ返しすることが目立ち、話しの発展性は低かった。セッション後半にかけて、おうむ返しは見られるものの、人の話を聞くこと、人の話を聞いてから自分から質問することが見られた。対象者 B は普段の会話で自分の気持ちを話すことが苦手で、照れてひねくれた行動をとることが見られる。セッション開始時はカードの質問に対し、「わからん」や一言のみを答える程度であったが、セッションが進むにつれて、会話量が増え、質問に対してその理由を答えたり、自分から人に質問をするなどが見られるようになってきた。
留意事項	
評価	対象者 A は「はじめは緊張したが、対象者 B と同じ気持ちであることがわかり安心した。同じ気持ちであることを対象者 B に伝えることで、対象者 B とところが通じた」と話している。対象者 B は「はじめてやったから、緊張した。対象者 A の話を聞いているといろいろと勉強になった。はじめてあった人は何を話していいかわからんからな。話題があると話ができるから、カードは役に立つ」と話している。
サポートツールの改善点	
サポート・ツールの概要	 <p>入手先: えじそんくらぶ(<a href="http://www.e-club.jp/">http://www.e-club.jp/</a>) 価格: 1400円</p>